

# 平成29年度の学校研究について

## 〔研究主題〕

自分の思いや考えをもち、学ぶ楽しさを感じる子どもの育成  
～算数科の指導を通して～

## 〔主題設定の理由〕

本校では教育目標の「学び合い 助け合い たくましく生きる子どもの育成」をめざし、重点目標として「学びに向かう力をもつ子どもの育成」を掲げ、わかる授業の実践に取り組んできている。

昨年度までの研究で、算数科において「見通し」を持たせる工夫に取り組んできた。その中で、授業の流れが子どもたちの中に定着し、見通しを自分で考えることができるようになってきた。また、解決の見通しを持たせることで、少しずつ自分の考えをノートに書くことができるようになってきた。さらに、友だち同士で進んで考えを交流したり、教えあったりする姿も見られるようになってきており、見通しを持たせ、自分の考えを書かせ、友だち同士で交流させることの有効性を共通理解することができた。

その一方で、課題を生み出すためにあるはずの見通しを、あまりに幅広く持たせすぎることによって、授業の流れの中で見通しから課題へスムーズにつながらない場面が見られた。また図式化の仕方とその活用、既習事項が徹底しておらず、見通しから課題設定、課題解決という流れが成立しない場面も見られた。さらに交流の場面では、自分の考えや解決方法を説明する力不足のためペア活動などがうまくいかないことがあり課題である。

そこで今年度は、昨年度までの研究の中で残された課題に取り組み、さらに子どもたちの力を伸ばしていくために、下の2点について研究を進めていく。

### ①子どもの実態から、課題につなぐための見通しの在り方について

- ・既習事項の徹底等

### ②自分の考えを表出させる交流の仕方について

- ・子ども一人ひとりが自分なりの考えを持つことができ、たとえその思考が途中であってもその段階までの考えを交流することができる。
- ・図式化の仕方とその活用

## 〔研究仮説〕

算数科の授業において、「見通しと課題のつながり」「子どもたちの考えの交流」を学年の実態に応じて工夫すれば、学ぶ楽しさを感じる子どもが育つであろう。

## 〔研究内容と計画〕

1 学期	2 学期	3 学期
<ul style="list-style-type: none"><li>・「学習のルール4か条」検討</li><li>・「家庭学習のてびき」検討</li><li>・支援体制について</li><li>・授業研究</li><li>・QUの分析と交流①</li><li>・学力向上プランの検討</li><li>・学力テスト分析</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・授業研究</li><li>・各種研究会の還流</li><li>・QUの分析と交流②</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・市学力テスト分析</li><li>・研究のまとめと次年度の方向性について</li><li>・次年度課程案の作成</li></ul>

※生活研、人権教育、特別支援教育などの研修も学期ごとに行う。